

根羽村教育大綱



令和2年4月

根羽村・根羽村教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1	改定の趣旨	1
2	教育大綱の計画期間	2
II	教育大綱	3
1	基本理念	3
2	基本方針	3
	(1) 学校教育の推進	3
	(2) 社会教育の充実	5
	(3) 伝統文化の継承と地域文化の創造	6

I はじめに

1 改定の趣旨

根羽村では、平成28年3月に第5次根羽村総合計画を策定し、この計画に定めた将来像『「誇り」と「自信」を持って地域に生きる・自然とともに、明るく、安全な未来に向かって』の実現に向けて取り組みを進めているところです。

また、教育分野においては、平成28年6月に本村の教育、文化の振興に関する総合的な施策の根本を定めた「根羽村教育大綱」を策定し、教育行政を推進してまいりました。

村では年々、児童生徒数が減少し、今後更に人口が減少することが推計される中、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな育み等を育成できる活力ある学校を、将来にわたって維持することが課題になっており、中学校でも数年後に複式学級が始まることを見据え、教育委員会では平成28年から、「学校の在り方」について検討を始めました。平成29年には、学校職員・議会・行政と一緒に大町市立美麻小中学校の視察を行い、PTAと共に「教育フォーラム」を開催するなど、研究を重ねてきました。更に平成30年4月、新たに、これからの学校のあるべき姿を検討する「新たな学校検討委員会」を発足し検討を行ってきました。委員会では4回の会議と白川郷学園の視察を経て、「義務教育学校の導入に向けて進むべき」との答申が行われ、令和2年度より義務教育学校」設立を決定しました。

今後、ますます人口減少、少子高齢化等が進展する中で、子どもたちが豊かな自然、気持ちの温かい人々に恵まれたふるさと根羽村に誇りと自信を持ってふるさとを大切にできる子ども、生きる力を身に付けて、「自立」のできる子どもを育てるためには、学校教育と社会教育の充実や文化・スポーツ等の振興など、教育の果たすべき役割はこれまで以上に重要となってまいります。

こうした中、「根羽村教育大綱」が令和元年度で期限を迎え、今後も将来にわたり本村の教育の充実を図り、本村の目指す教育の姿を実現する必要があることから、地方教育行政の運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、大綱を改定するものです。

大綱は、当村の教育が目指す基本的な方向性を示した計画であると同時に「未来を担う子どもたちを育むための、学校、家庭、地域のすべての大人へのメッセージでもあります。子どもたち一人ひとりが、将来にわたり変化の激しい社会において、人と協力しつつ自立的に社会生活を送ることを願い、寄り添いながら成長を促すことが保護者の大切な役割です。教育の出発点である家庭教育を基盤に「確かな学力」を身に付けることをはじめとして、「豊かな人間性」「健康・体力」即ち「生きる力」を学校、家庭、地域で育むことが重要です。多くの人に支えられ、見守られ、時には諭されながら、様々な経験を重ねて成長する過程で、地域の方の自分たちへの熱い思いを子どもたち自身が感じることも大切な教育の一つです。

2 教育大綱の計画期間

この大綱は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とします。村づくりの基本と目標を定めた「根羽村第5次総合計画」の基本目標の達成に向け、教育分野の基本目標及び重点的に取り組むべき基本施策の方向性を示して行きます。

なお、社会の変化を踏まえて、毎年、総合教育会議において協議・調整を行い、必要に応じて適宜見直していくものとします。

H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
第5次根羽村総合計画（前期基本計画）					第5次根羽村総合計画（後期基本計画）				
	根羽村教育大綱				根羽村教育大綱（改定）				
	第2次長野県教育振興計画		第3次長野県教育振興計画						
	第2次教育振興計画（国）		第3次教育振興計画（国）						

II 根羽村教育大綱

1 基本理念

郷土に誇りと自信を持ち、未来を切り拓く深い豊かな学びの創設

「第5次根羽村総合振興計画」に示す村の将来像、「誇りと自信を持って生きる・自然とともに、明るく、安全な未来に向かって」の実現に向け、6つの基本目標のひとつに、「地域で進める人づくり」が掲げられています。

根羽村の未来は、次世代を担う人材の育成にかかっており、それには幼児教育、学校教育、社会教育が大きな役割を担っており、家庭、地域、学校、保育所、行政などの地域全体が連携し地域で育てることが重要です。

根羽村に暮らす全ての住民が豊かな生涯を送るため、「一貫性と連携強化」を重点とし、乳幼児期から支援・保育・教育が途切れることなく、一貫した支援と体制の強化を図り、全ての住民が生涯にわたり豊かさを求めて学び続けるような環境の充実を目指します。

2 基本方針

(1) 学校教育の推進

■基本目標

豊かな自然、気持ちの温かい人々に恵まれたふるさと根羽村に誇りと自信を持って、ふるさとを大切にできる子ども、9年間の学びをとおして社会に向けて自分の力で未来を切り拓く「自立」できる子どもの育成を目指します。

9年間を見通した一貫教育を活かした教育の実践と、スモールメリットを最大限に活かした特色ある教育を内外にPRし、児童・生徒の受入事業を積極的に展開し、多様な人間関係の形成と自己有用感を高めることを進めます。

■主要施策

○学校教育の推進

義務教育入学期から9年生卒業時の児童生徒の姿を意識した、義務教育9年間

の一貫教育を実践することで一人ひとりの特性を伸ばし育てる教育を展開します。

9年間を一貫した教育を行う義務教育学校となり、後期課程（中学校）では教科教室制を取り入れた新しい学びの空間が設けられます。また前期課程（小学校）においては一部教科担任制を導入し、専門性を活用しながら知識・技能を活用する力を身に付け、確かな学力の向上に努めます。

また、小中一貫教育を最大限に活かした教育を実践するため、教職員の研究活動や研修活動への参加を積極的に推奨し、教職員のスキルアップの支援を進めます。

○教育施設整備の充実

Society5.0時代を生きる子どもたちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等を活用が求められている。国が推進するGIGAスクール構想を活用し、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するとともに、ICT支援員等を配置し利活用の推進に努めます。

○親子留学の推進

親子留学説明会や夏休み等の長期休暇を利用した「緑いっぱい山の小さな学校体験事業」を継続的に実施するとともに、自然豊かな環境の中で、小中一貫教育や個々の成長に応じたきめ細やかな学習指導など、スモールメリットを生かした根羽村の教育環境をアピールし、安城市からの親子留学による児童・生徒の受け入れを積極的に推進していきます。

○保育所、義務教育学校の一貫教育の推進

根羽村の自然豊かな環境を活かした「やま保育」を推進するとともに、学校生活にスムーズに移行できるよう、行事への相互交流や、職員間の合同会議の実施等により、保育所から義務教育学校の12年間の一貫した教育の推進を図ります。

○学校と地域の連携の充実

地域と連携した学校運営の充実を図るため、コミュニティスクール事業（ねば杉の子サポート隊）の充実を図るとともに、ねば杉の子サポート隊コーディネーターや地域おこし協力隊をはじめ、地域の人々が学校の授業や行事に積極的に関わられるよう取組み、地域のより深い学びを展開し、子どもの帰郷意識の向上を図

ります。

○国際教育の充実

近年のグローバル化の進展とともに、外国語、殊に英語の必要性は高まっています。保育所の就学前児童からの一貫英語教育、7・8年生を対象とした海外研修やALT等の英語講師を活用した英語塾を展開し、国際感覚を身に付ける教育の推進を図ります。

(2) 社会教育の充実

■基本目標

地域の住民が職場や年齢の枠を越えて活動、交流する場として、生き生きと楽しみの持てる社会教育、公民館活動は地域の活性化に必要不可欠です。社会情勢やライフスタイルの変化・意識の変化などによる住民ニーズの把握に努め、より多くの住民が参加できるよう事業を計画推進します。

■主要施策

○生涯学習の推進

村民一人ひとりが豊かに生きがいのある充実した生活を営み、活力に満ちた地域社会を形成するため、だれもが学べる学習環境を整備するとともに、村民の自発的な学習活動への支援を図ります。

○地元の先生の活用

村内には、趣味の分野はもちろん農林作業等を含めて「当たり前」に行っている事が、他の人から見てすばらしい技術、知識となる事が多々あるため、村内にも様々な分野で存在する「地元の先生」による教室の開催を進めます。

○地域学の推進

日本有数の星空、豊富にある根羽スギ、中馬街道などの歴史、伝統料理などの根羽村にある豊かな教材を活用した講座を開設し、地域への理解を深めると共に郷土愛の推進を図ります。

○生涯スポーツの推進

スポーツを通じて社会参加することで、一人ひとりの豊かな生活の実現を目指すと共に健康で活力のある地域づくり、人づくりを推進するため、性別、年

齡、人数等に関係なく村民が気軽に親しみ、楽しめるスポーツの推進を図ります。

(3) 伝統文化の継承と地域文化の創造

■基本目標

長年培ってきた先人達の努力の結晶である有形・無形の歴史的文化遺産を貴重な観光資源としながら保護・継承して行きます。また、豊かな自然を生かした新たな芸術・文化の創造、発信への取り組みも進めます。

■主要施策

○文化財の継承発展

気象環境が大きく変化し、局地的な大災害の発生も懸念される昨今、天然記念物である「月瀬の大杉」をはじめ、「釜ヶ入の甌穴」、「亀の甲岩」、「信玄塚」等数多くある自然・史跡文化財の保全継承に努めるとともに、少子高齢化が進む中ですが、「八柱神社七年祭」、「小戸名の獅子舞」、「廻り太鼓」等の伝統文化の継承に努めます。

○歴史資料の整理、保存

村の資料館には、数多くの貴重な資料が残されていますが、専門家の助言を得るなどして、貴重な資料を適切に整理、分類した上で保存を進めます。

○地域に残る伝統文化の継承

長年踊りつがれてきた「盆踊り大会」。少子高齢化や時代の変化の中で、伝統的な盆踊りと新しいスタイルの盆踊りとの調和を図りながら、全ての世代の人々が楽しめる盆踊り大会を推進します。

愛知県と岐阜県の文化の影響を受ける当村にあっては、郷土食をはじめ各地区での伝統行事等にも伝統文化と言えるものが数多くあります。そういった文化を村全体で情報を共有し保存するよう取組みます。

○新たな文化・芸術の創造

村にある豊かな自然を生かして、新たな山村文化・芸術を創造、発信できるような取組を検討します。